

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1 2 1 2 4 1 9
施設名（園名等）	もみじ幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学あそび

<テーマの設定理由>

本園は遊びを大事にし、遊びを中心とした保育を行っている。特に、大人が押し付ける遊びではなく、子どもの興味関心に即した、子どもの自発的遊びに、保育者が着目し、その遊びがより豊かに深まるように、適切な援助をするようにしている。

今年度は、幼稚園にて購読する書籍記載の科学実験に興味を示した園児の遊びをきっかけにし、自然に囲まれた幼稚園環境を生かし自然科学を中心に探求心や好奇心を涵養できるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- 1 学期 7 月 科学あそび書籍を基に、ビニール風船の作成
- 2 学期 11 月 講師を招き『サイエンスショー』の実施
- 12 月 職員製作のロケット風船の披露
- 3 学期 3 月 園児によるオリジナルロケット風船の作成

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

科学あそび書籍に興味をもった園児を中心に、ビニールゴミ袋による風船を製作。
園児には、完成による達成感に加え、書籍が提示する状況が目前で起きたことに伴う衝撃感があったように見受けられた。

続き 11 月には、子どもたちの科学あそびへの関心を広げるべく、専門家（チャーリーさん）を招いた『サイエンスショー』を開催。

これにより、実際に実験をしてみたいと思う園児が増える大きなきっかけとなった。

12 月に、このサイエンスショーの中でも盛り上がりがあったロケット風船作りを、職員によるクイズ形式で再現することとした。

基本形状は、丸い風船、細長い風船等複数用意。装飾品として色々な形状の翼を提示。

この後、どの形のロケットが一番よく飛ぶか、子どもたちにクイズを出し、実際に飛ばしてみる実験を行った。

園児はそれぞれ、自分の予測通りの結果に喜んだり、異なる結果に驚いたりし、形と飛行距離の関係性を感じとる様子を見とった。

3 月には、12 月に職員が製作したロケットを基にした園児による製作作業を実施。
前回の反応に加え、次回の製作に向けた試行錯誤の萌芽を見受けた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

職員においては、科学あそびと聞くと、一見難しい遊びをイメージしてしまい敬遠しがちであった。しかし本活動を実施する中で、空気を不思議に思う園児の視点は、子どもにとっては難しいことではなく、自然と生活の中にあるとても身近な遊びであることを認識する機会となった。

この【不思議に思ったことを、実際にやってみる】ことに【実験】と名をつけてしまうと、大人はかしくまってしまうがちであったが、子どもたちの自然な取組の姿に、実験と自由保育の方向性には共通しているものがあることを再認識することにもなった。

また、3月に行ったオリジナルロケット風船作りにおいて、良く飛ぶロケット作りを一通り楽しんだ後、自らのロケットが偶然ずらんテープに引っかかったことを切欠に、「静電気」に気付いた園児もあり、そこから想定していなかった静電気を利用した遊びに繋がることにもなった。この事例から、科学あそびの奥が深さを感じることで、単純な素材（ビニール）を活用した教育活動に無意識に限界を設定していたことを認識する機会にもなった。